

## 研究の要旨

小学校外国語活動では、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標とし、「異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深める」指導を行うよう、学習指導要領解説に謳われている。昨今の教育現場における ICT 環境は向上し、小学校外国語活動においてもインターネットを用いた海外交流活動の可能性が高まってきた。先行研究から、それらは児童のコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めることへの有効性が評価されている。

筆者は平成 23 年度に、勤務校地区の地場産業であるお茶について学んだことを、児童が外国人留学生に伝えるという実践を行った。児童らは、実に生き生きとコミュニケーションを図ることを楽しんでおり、伝えられた充実感を得ることができた。この実践から、英語で伝える必然性と、相手の知らない伝えたいことを明確にした活動は、コミュニケーション能力の素地を養う活動として期待できると実感した。また、このような「伝わった達成感」を味わえる活動は、単発的に終わるのではなく継続的に行うことで、より児童のコミュニケーション意欲を持続させることにつながると感じた。

小学校においてインターネットなどを用いた海外交流活動の実施率はまだ低い。実施されにくい要因として考えられることは、テレビ会議などの同期型交流を行う場合の時差への対応や、翻訳や通訳の問題、そして成果物からの学びの蓄積や振り返りが困難で、教師主導の単発的な活動になりがちな点などである。そこで筆者はそれらの課題を解決する手段として、インターネットを用いて時差を気にせず行うことができる、非同期型の海外交流を試みた。

児童が自ら制作できるアプリケーションとしては、iOS アプリケーションソフト「ロイロノート」を用いた。このアプリケーションは、児童が伝えたいことを画像と自分の音声でまとめた、音声入りスライドショーを制作することができる。交流には、学習管理システムのひとつである Moodle を活用した。Moodle 内のフォーラムにスライドショー作品を登録すると、限られた人のみ閲覧・コメントの返信ができる。これにより時差にとらわれない非同期型交流が可能となった。

本研究では、オーストラリアの日本語履修中高生との交流実践を行い、相手を意識したスライドショー制作による学びが、「伝えよう」とするコミュニケーション意欲を高めるのに有効かどうかを検証した。また、スライドショーを用いての非同期型交流が、持続的な交流活動を行うのに有効かどうかについても検証した。

写真撮影から音声の録音再生が 1 台で行えるタブレット型端末 iPad で行ったスライドショー制作は、児童主体で相手意識を高く持つて行うことができた。グループで行った制作は互恵的な協働学習になり、スライドショーは成果物として電子データでの編集・蓄積が可能であった。また、Moodle を介しての交流は、時差にとらわれず、日豪それぞれの学習計画に沿って無理なく持続的な交流活動が行えることがわかった。